

図 2-12 本陣 平面図 (平成 11 年保存修理工事図面)

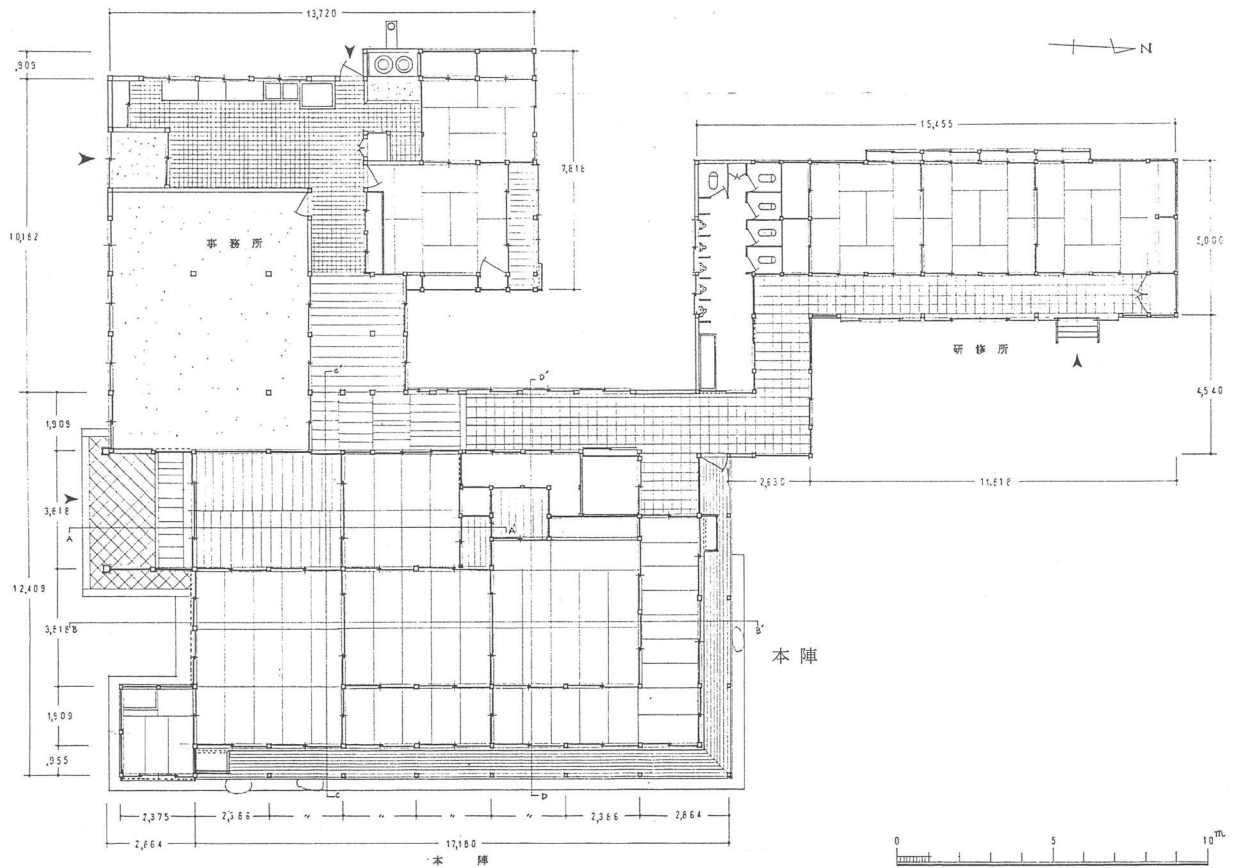


図 2-13 本陣 平面図 (平成 11 年保存修理時・修理前図面)

表 2-8 本陣の構造形式

本陣の構造形式	
桁行 17.2m	
梁間 12.4m	
寄棟造	
南面玄関付属	
茅葺	
南面東突出部	桁行 2.4m
	梁間 2.9m
	切妻造
	棧瓦葺
平面積 260.398㎡	
平葺面積 440.884㎡	
平成 10 年 (1998) ~半解体修理	



写真 2-18 本陣 外観 (南西より)

表 2-9 本陣の変遷

西暦	元号	年	事項
1622	元和	8	庄内に入封した酒井忠勝は鶴岡・高畑（鶴岡市上畑町）に「高畑御殿」と呼ばれた仮殿を建て鶴ヶ岡城の拡張整備を行った。
1686	貞享	3	仮殿の一棟を参勤街道である清川街道の藤島村（現藤島字西川原）に移し藩主が江戸往復の際には休憩所としていたもので「御茶屋」と称された建物である。
1872	明治	5	8月、松ヶ岡開墾創業に際し藤島村から現在の地に移築されて、開墾場の事務所兼集会所として利用された。
1914	大正	12	県庁より耕地整理の技手と助手が松ヶ岡の耕地整理事業に派遣され、本陣を事務所とした。
1916		14	本陣に接続し西北側に耕地整理事務所が建設された。
1917		15	本陣玄関の土間をコンクリートに改良。
1930	昭和	5	土足で入れる事務室と台所を改築。
1942		17	本陣西側を増改築し、廊下と便所と洗面所を整備。
1943		18	元方会計を製糸所から本陣に移し、金庫を置くために御三の間続きの物置下屋を撤去し9尺に9尺の和室に改築。
1950		25	貞明皇后の行啓に際し、雨戸の板戸を新たにガラス戸とし、縁側の板の張り替え、襖と壁を張替た。
1973		48	管理人の1世帯が居住していたが、管理人の定年退職により宿直制を改めた。
1977		52	農村婦人の家設置事業により、台所改修し事務室を9尺拡張した。
1980		55	本陣一部を解体撤去し、8畳3室と便所1棟を新設。
1984		59	本陣管理を宿直制としていたが、3月から警備保障に委託した。
1998～2000	平成	10～12	半解体保存修理事業により復原。

参照：武山省三：『松ヶ岡開墾史』、松ヶ岡開墾場、1991.8

武山省三：『凌霜史 松ヶ岡開墾場百二十年のあゆみ』、松ヶ岡開墾場、1997.2





写真 2-19 本陣 外観（鶴岡市郷土資料館所蔵）



写真 2-20 松岡養蚕場繪端書（鶴岡市郷土資料館所蔵）



写真 2-21 本陣 外観（平成 10 年保存修理前・南東より）



写真 2-22 本陣 外観（平成 10 年保存修理前・南西より）  
※東側に旧事務所が接続している



写真 2-23 本陣 外観（平成 12 年保存修理後・南東より）



写真 2-24 本陣 外観（平成 12 年保存修理後・南西より）



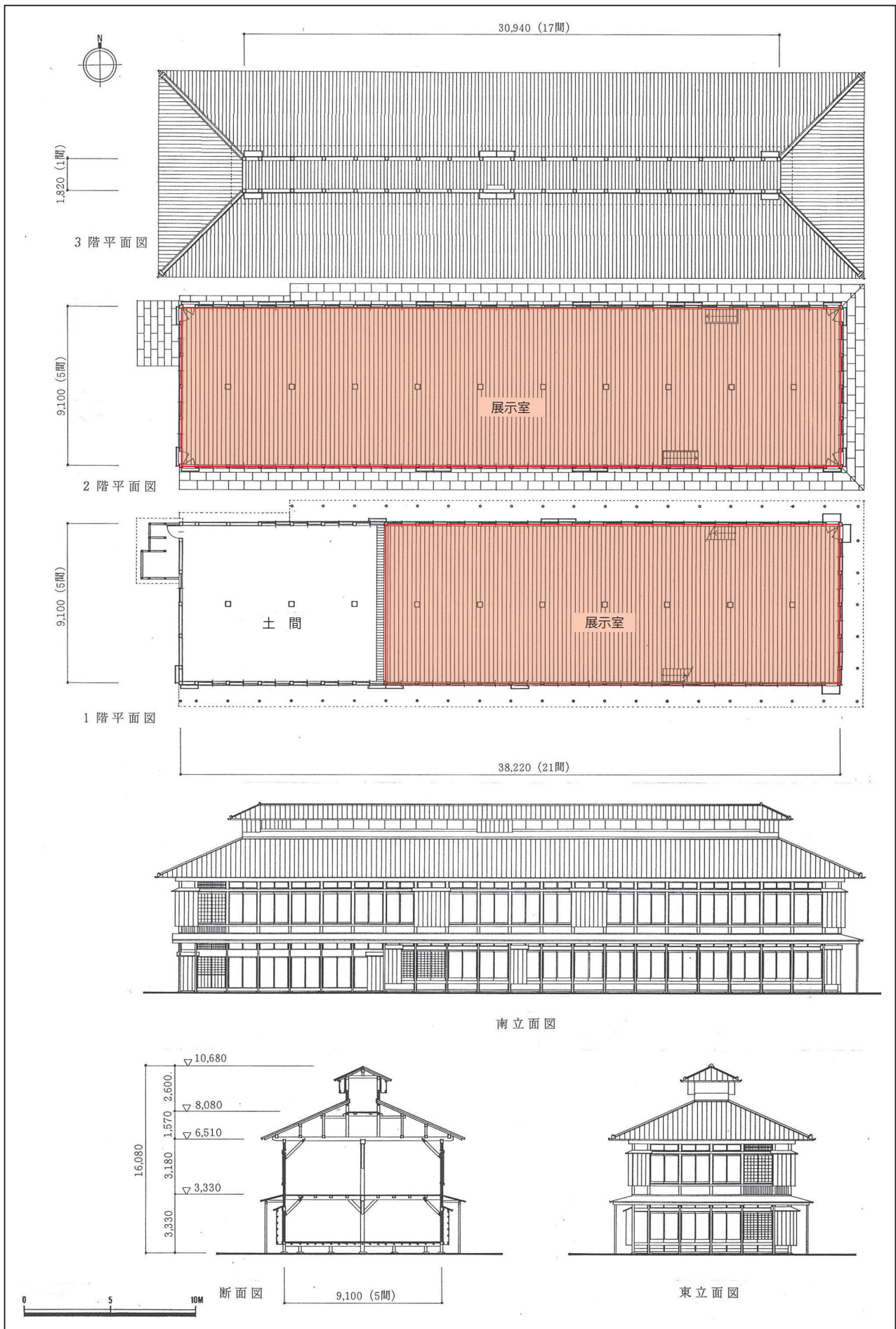
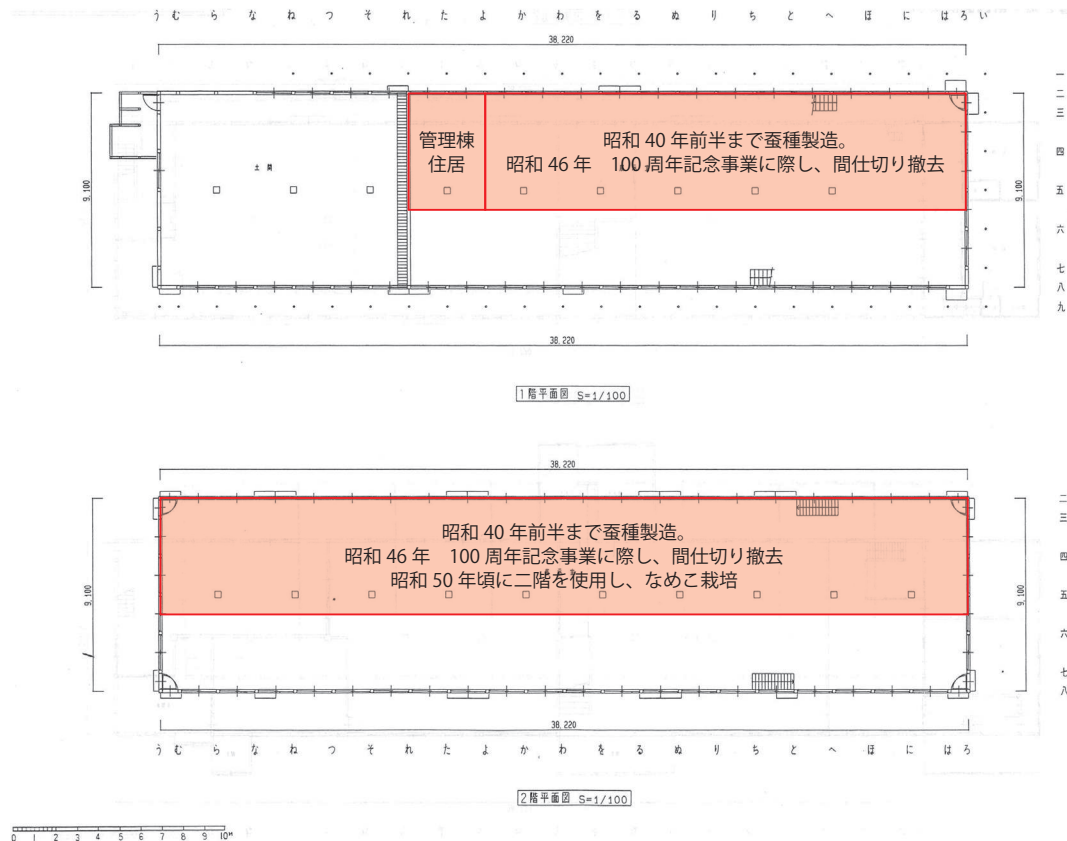


図 2-14 現在の1番蚕室の使用状況 (図面：羽黒町教育委員会：『国指定史跡松ヶ岡開墾場基本計画』、1996.3 より)



図面：羽黒町教育委員会：『国指定史跡松ヶ岡開墾場基本計画』、1996.3より

図 2-15 昭和 20 ～ 40 年代における 1 番蚕室の使用状況

表 2-10 1 番蚕室の構造形式

1 番蚕室の構造形式			
竣工年	明治 8 年 (1875)	木材調達	庄内地方
棟梁	高橋 兼吉	瓦	鶴ヶ岡城内 七つ蔵瓦
構造	木造三階建	桁行	21 間 (38.2 m)
建築面積	150 坪 (347.80㎡)	梁間	5 間 (9.10 m)
	1.2 階床面積同じ	高さ	5 間 4 尺 (10.31 m)
3 階床面積	17 坪 (56.31㎡)	柱の形状	四角形断面 (7.58 寸角) (230mm角)
		柱の間隔	2 間 (3.64 m)



写真 2-25 1 番蚕室 外観 (南東より)



表 2-11 1 番蚕室の変遷

西暦	元号	年	事項
1875	明治	8	高橋兼吉（当時 30 歳）により建築される。
			養蚕開始。
1882		15	開墾士の脱退による労力不足により養蚕休止。
1891		24	養蚕開始。
1934	昭和	9	（経営転換により桑園廃止し蚕種事業へ転換）
		20～40 頃	蚕種製造を行う。
1951		26	松ヶ岡産業株式会社の所有となる。
1971		46	開墾 100 周年記念祝賀会場とし 2 階の間仕切りを取り外した。
1973		48	松岡蚕種株式会社の所有となる。
		50 頃	2 階全面を使用し、なめこ栽培（約 5 年程）。
1983		58	社団法人丕顕会に寄付され、「松ヶ岡開墾記念館」として 10 月に開館。
2013	平成	25	公益財団法人致道博物館の所有となる。
2016		28	鶴岡市の所有となる。

参照：武山省三：『松ヶ岡開墾史』、松ヶ岡開墾場、1991.8

武山省三：『凌霜史 松ヶ岡開墾場百二十年のあゆみ』、松ヶ岡開墾場、1997.2



写真 2-26 1 番蚕室 外観（松ヶ岡開墾場所蔵）



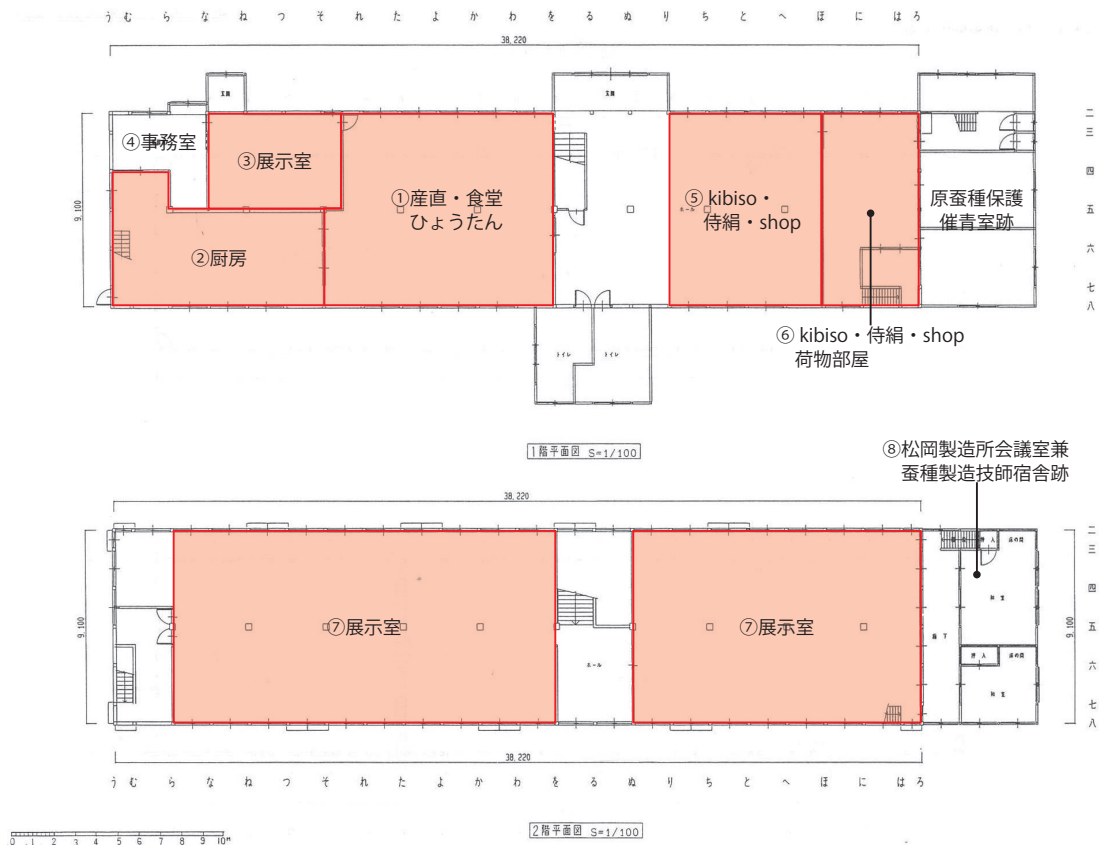
写真 2-27 1 番蚕室 外観（南より）



写真 2-28 1 番蚕室 一階展示状況

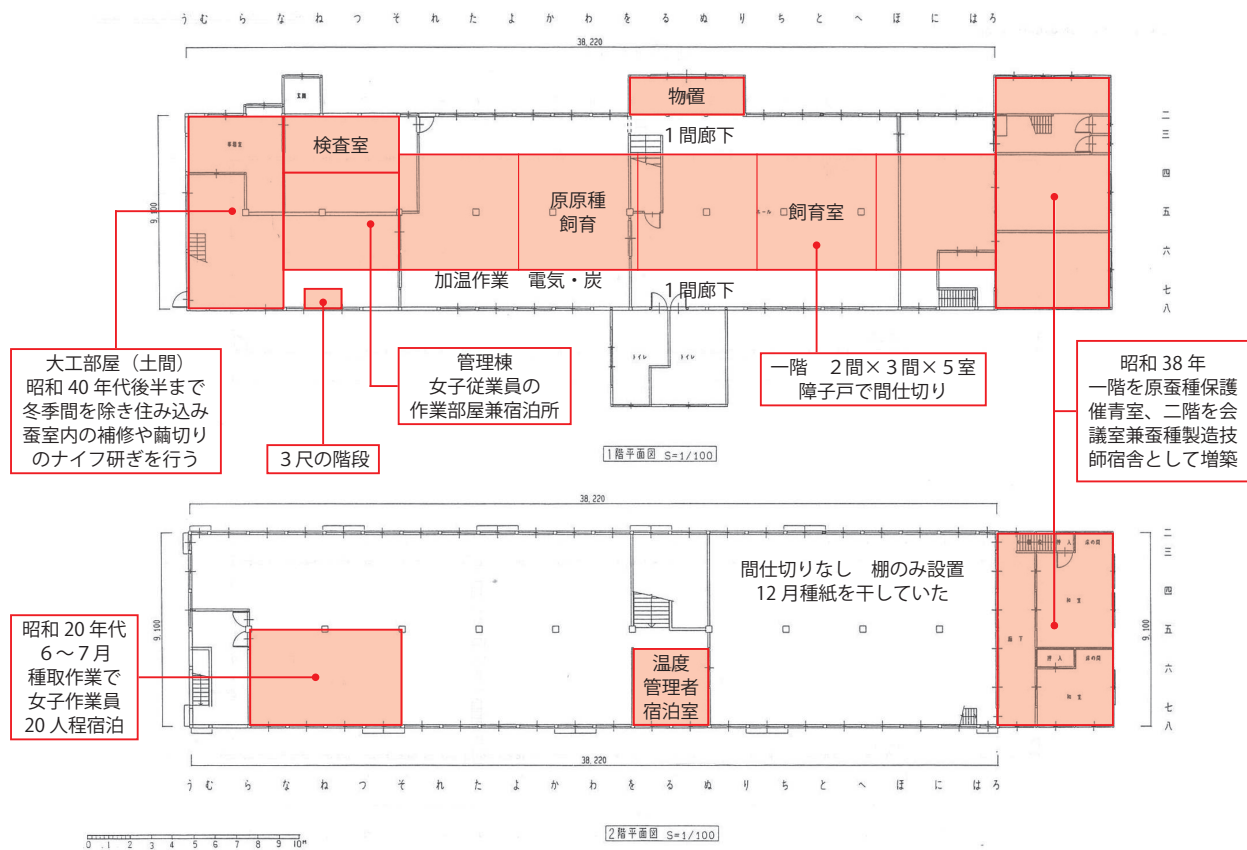


写真 2-29 1 番蚕室 二階展示状況（土人形コレクション）



図面：羽黒町教育委員会：『国指定史跡松ヶ岡開墾場基本計画』、1996.3より

図 2-16 現在の2番蚕室の使用状況



図面：羽黒町教育委員会：『国指定史跡松ヶ岡開墾場基本計画』、1996.3より

図 2-17 昭和20～40年代における2番蚕室の使用状況

表 2-12 2 番蚕室の構造形式

2 番蚕室の構造形式			
竣工年	明治 8 年 (1875)	木材調達	庄内地方
棟梁	高橋 兼吉	瓦	鶴ヶ岡城内 七つ蔵瓦
構造	木造三階建	桁行	21 間 (38.2 m)
建築面積	150 坪 (347.80㎡)	梁間	5 間 (9.10 m)
	1.2 階床面積同じ	高さ	5 間 4 尺 (10.31 m)
3 階床面積	17 坪 (56.31㎡)	柱の形状	四角形断面 (7.58 寸角) (230mm角)
		柱の間隔	2 間 (3.64 m)

表 2-13 2 番蚕室の変遷

西暦	元号	年	事項
1875	明治	8	高橋兼吉 (当時 30 歳) により建築される。
			養蚕開始。
1882		15	開墾士の脱退による労力不足により養蚕休止。
1891		24	養蚕開始。
1934	昭和	9	(経営転換により桑園廃止し蚕種事業へ転換)
1951		26	松ヶ岡産業株式会社の所有となる。
1978		53	松岡蚕種株式会社の所有となる
1984		59	1・2 階を改装し一翠苑 (食事処) 開業。(～平成 24 年まで) ①②
			1 階展示室にてギャラリーまつ開業。 ③
			1 階東側にて松岡蚕種陶芸部として陶芸教室入居。(～平成 24 年まで) ⑤
2004	平成	16	松岡物産株式会社の所有となる。
2012		24	1 階食事処をまつ Café に改名。
2013		25	1 階食事処を荘内藩に改名。(～平成 27 年まで)
2016		28	鶴岡市の所有となる。
2017		29	1 階東側に kibiso・侍絹・shop 入居。 ⑤
			1 階西側に直売所ひょうたん入居。食堂も兼ねる。 ①②

参照：武山省三：『松ヶ岡開墾史』、松ヶ岡開墾場、1991.8

武山省三：『凌霜史 松ヶ岡開墾場百二十年のあゆみ』、松ヶ岡開墾場、1997.2



写真 2-30 2 番蚕室 二階内部 (松ヶ岡開墾場所蔵)



写真 2-31 2 番蚕室 外観 (北西より)





写真 2-32 2 番蚕室 ①産直・食堂 ひょうたん



写真 2-33 2 番蚕室 ②厨房



写真 2-34 2 番蚕室 ③一階展示室



写真 2-35 2 番蚕室 ④事務室



写真 2-36 2 番蚕室 ⑤ kibiso・侍絹・shop



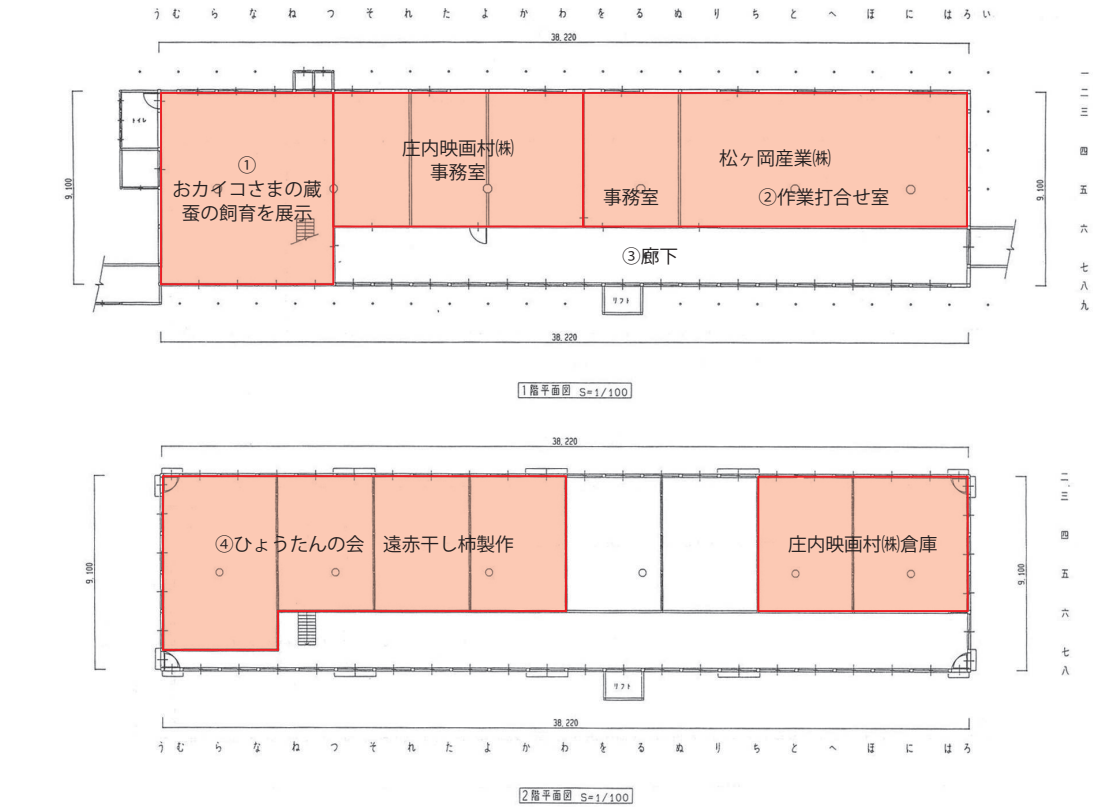
写真 2-37 2 番蚕室 ⑥ kibiso・侍絹・shop 荷物部屋



写真 2-38 2 番蚕室 ⑦二階展示室

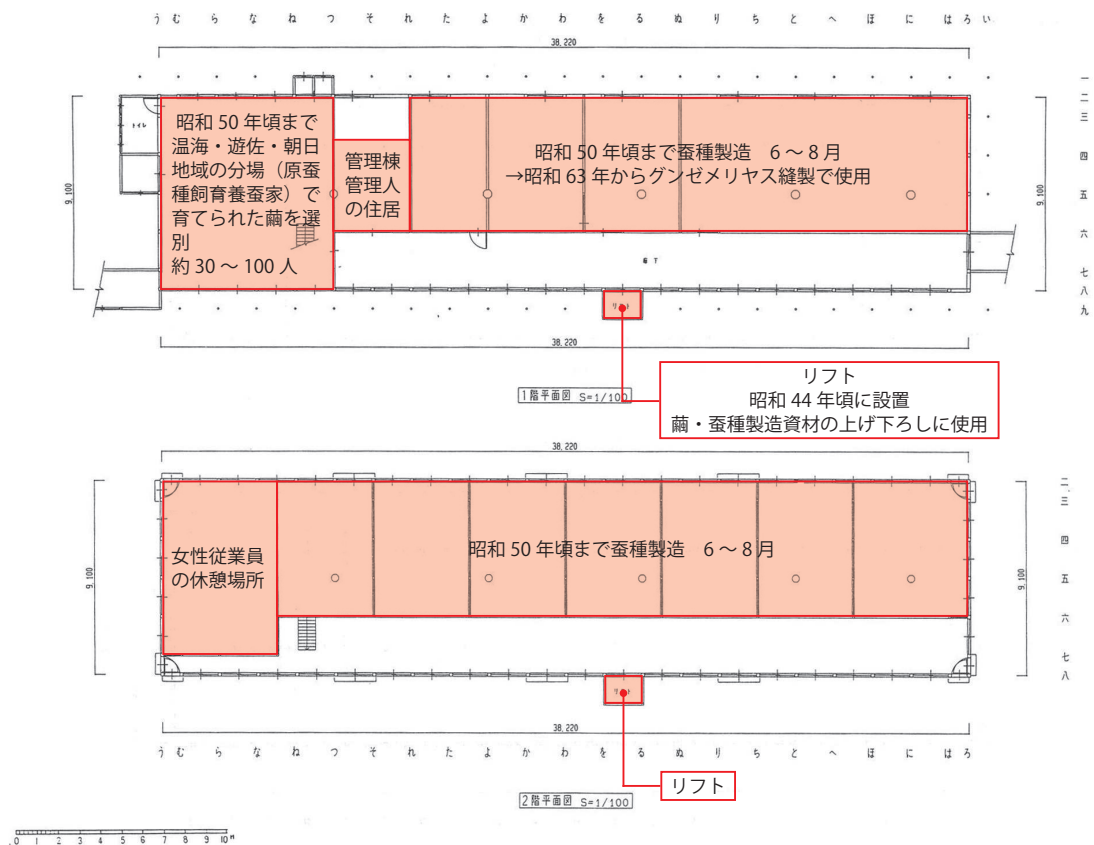


写真 2-39 2 番蚕室 ⑧二階蚕種製造技師宿舍



図面：羽黒町教育委員会：『国指定史跡松ヶ岡開墾場基本計画』、1996.3より

図 2-18 現在の3番蚕室の使用状況



図面：羽黒町教育委員会：『国指定史跡松ヶ岡開墾場基本計画』、1996.3より

図 2-19 昭和20～60年代における3番蚕室の使用状況



表 2-14 3番蚕室の構造形式

3番蚕室の構造形式			
竣工年	明治9年(1876)	木材調達	最上地方
棟梁	相馬 富吉	瓦	鶴ヶ岡城内の瓦
構造	木造三階建	桁行	21間(38.2m)
建築面積	150坪(347.80㎡)	梁間	5間(9.10m)
	1.2階床面積同じ	高さ	5間4尺(10.31m)
3階床面積	17坪(56.31㎡)	柱の形状	八角形断面(1尺3寸5分)(410mm角)
		柱の間隔	中央部 4間(7.28m)
			両端部 3間(5.46m)

表 2-15 3番蚕室の変遷

西暦	元号	年	事項
1876	明治	9	相馬富吉により建築される。
			養蚕開始。
1882		15	開墾士の脱退による労力不足により養蚕休止。
1891		24	養蚕開始。
1934	昭和	9	(経営転換により 桑園廃止し蚕種事業へ転換)
		20～50頃	蚕種製造を行う。
1951		26	松ヶ岡産業株式会社の所有となる。
1978		53	松岡蚕種株式会社の所有となる。
1984		59	1階にて松岡蚕種電気部品加工業での使用開始。(～昭和63年まで)
1988		63	1階にて松岡蚕種がグンゼメリヤス縫製での使用開始。
1995	平成	7	ひょうたんの会が2階の棚を活用し、遠赤干し柿づくり開始。
2004		16	松岡物産株式会社の所有となる。
2006		18	庄内映画村株式会社が事務所として入居。
2016		28	展示養蚕再開。
			松ヶ岡産業株式会社が入居。
			鶴岡市の所有となる。

参照：武山省三：『松ヶ岡開墾史』、松ヶ岡開墾場、1991.8

武山省三：『凌霜史 松ヶ岡開墾場百二十年のあゆみ』、松ヶ岡開墾場、1997.2



写真 2-40 3番蚕室 外観(南東より)



写真 2-41 3番蚕室 外観 (松ヶ岡開墾場所蔵)



写真 2-42 3番蚕室 外観 (南西より)



写真 2-43 3番蚕室 ①お蚕様の蔵



写真 2-44 3番蚕室 ③松ヶ岡産業(株)作業打合せ室



写真 2-45 3番蚕室 ②一階廊下



写真 2-46 3番蚕室 ②一階廊下リフト

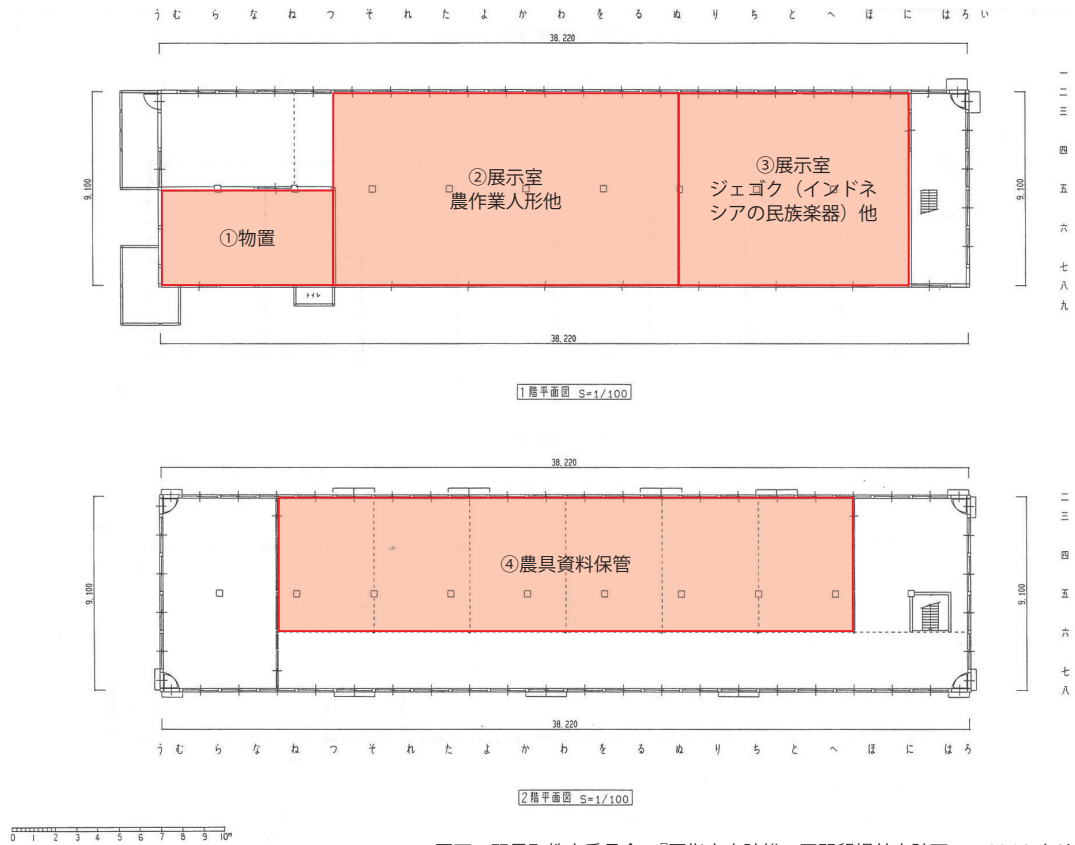


写真 2-47 3番蚕室 ④二階遠赤干し柿製造棚



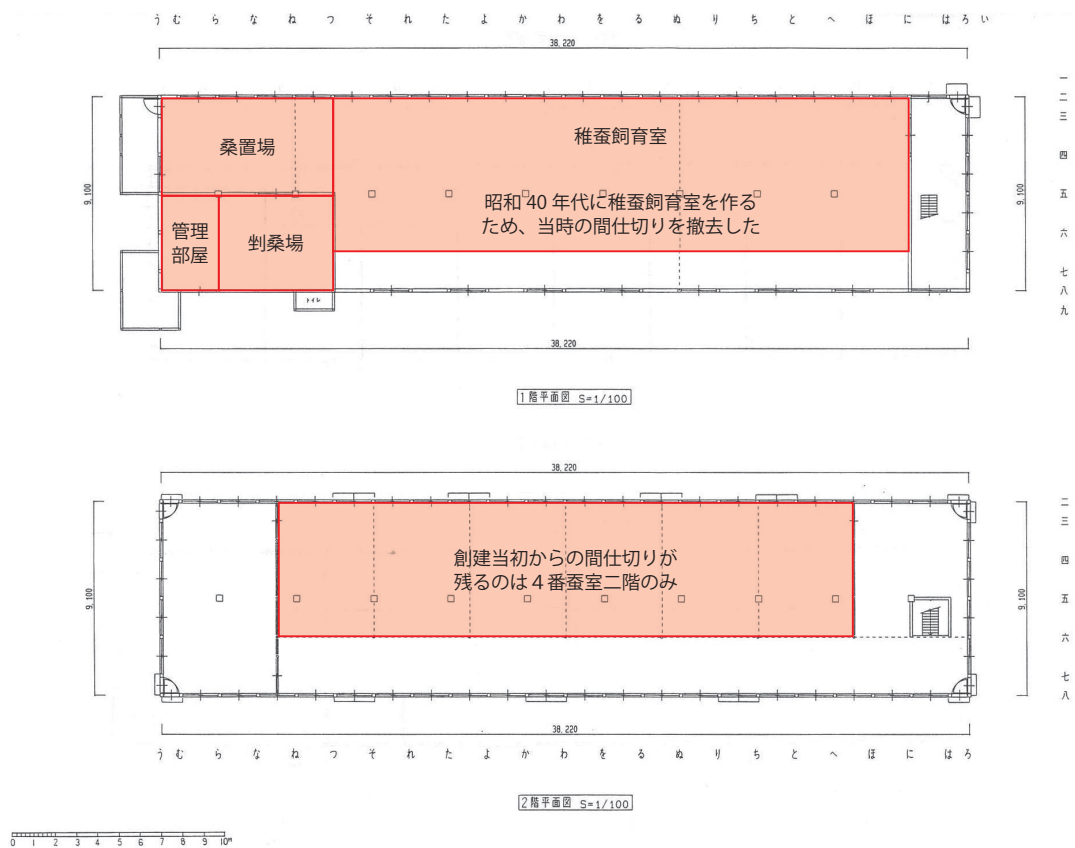
写真 2-48 3番蚕室 ④二階遠赤干し柿製造棚





図面：羽黒町教育委員会：『国指定史跡松ヶ岡開墾場基本計画』、1996.3より

図 2-20 現在の4番蚕室の使用状況



図面：羽黒町教育委員会：『国指定史跡松ヶ岡開墾場基本計画』、1996.3より

図 2-21 昭和40年代における4番蚕室の使用状況

表 2-16 4番蚕室の構造形式

3番蚕室の構造形式			
竣工年	明治8年(1875)	木材調達	庄内地方
棟梁	高橋 兼吉	瓦	鶴ヶ岡城内七つ蔵の瓦
構造	木造三階建	桁行	21間(38.2m)
建築面積	150坪(347.80㎡)	梁間	5間(9.10m)
	1.2階床面積同じ	高さ	5間4尺(10.31m)
3階床面積	17坪(56.31㎡)	柱の形状	四角形断面(7.58寸角)(230mm角)
		柱の間隔	2間(3.64m)

表 2-17 4番蚕室の変遷

西暦	元号	年	事項
1875	明治	8	高橋兼吉(当時30歳)により建築される。
			養蚕開始。
1882		15	開墾士の脱退による労力不足により養蚕休止。
1891		24	養蚕開始。
1934	昭和	9	(経営転換により 桑園廃止し蚕種事業へ転換)
1951		26	松ヶ岡産業株式会社の所有となる。
1978		53	松岡蚕種株式会社の所有となる。
1989	平成	元	致道博物館が収蔵庫として借用。
1990		2	致道博物館が庄内農具館として開館。
2004		16	松岡物産株式会社の所有となる。
2013		25	公益財団法人致道博物館の所有となる。
2016		28	鶴岡市の所有となる。

参照：武山省三：『松ヶ岡開墾史』、松ヶ岡開墾場、1991.8

武山省三：『凌霜史 松ヶ岡開墾場百二十年のあゆみ』、松ヶ岡開墾場、1997.2



写真 2-49 4番蚕室 外観(北西より)





写真 2-50 4 番蚕室 外観 (松ヶ岡開墾場所蔵)



写真 2-51 4 番蚕室 外観 (北東より)



写真 2-52 4 番蚕室 ①物置



写真 2-53 4 番蚕室 ②展示室



写真 2-54 4 番蚕室 ②展示室



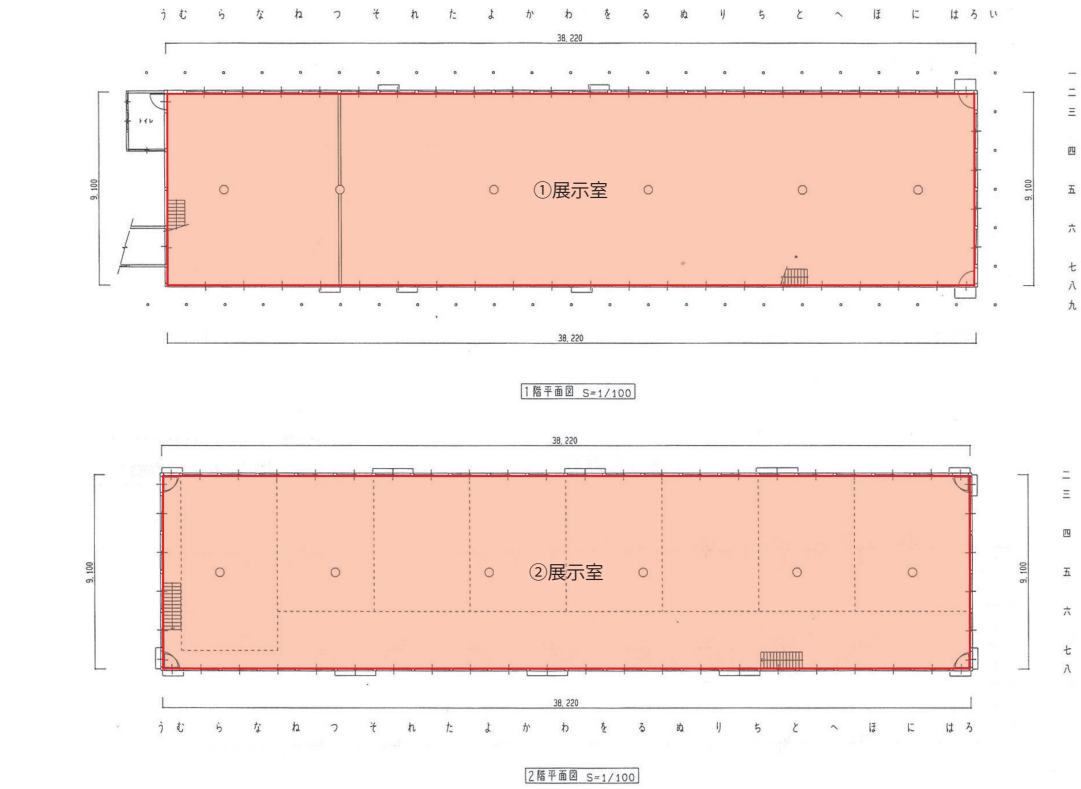
写真 2-55 4 番蚕室 ③展示室



写真 2-56 4 番蚕室 ④農具資料保管状況

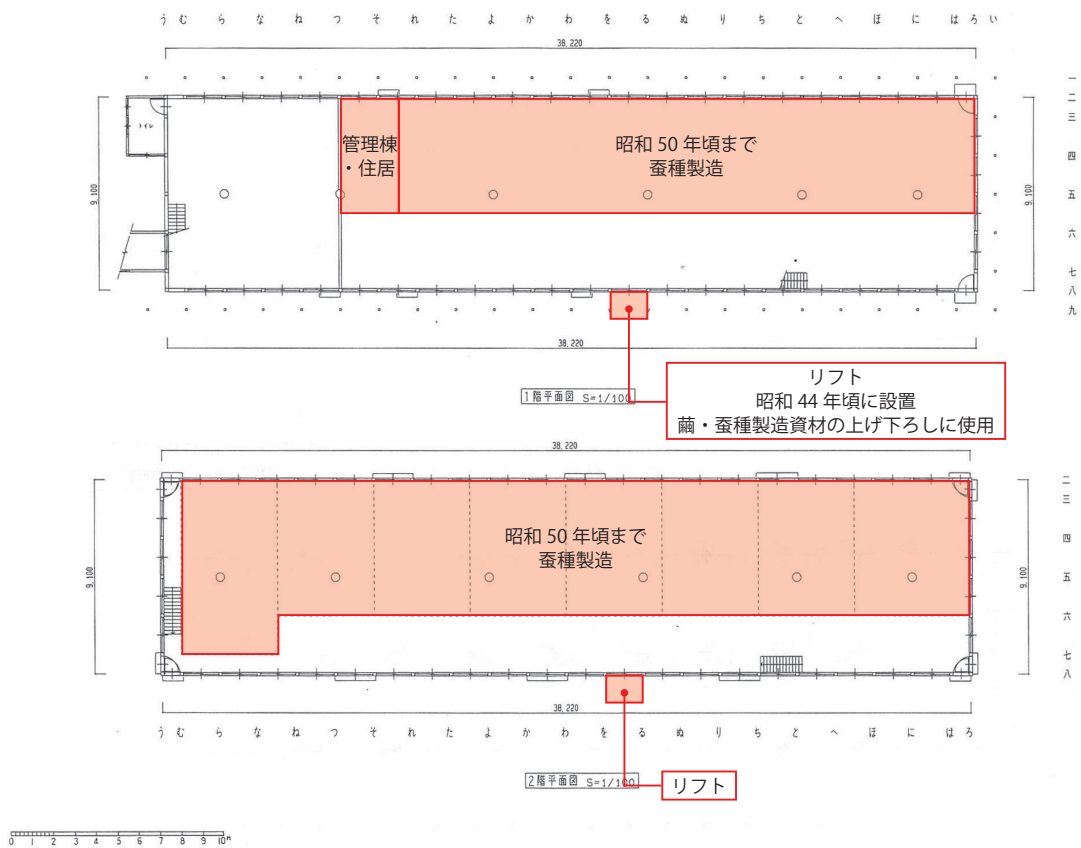


写真 2-57 4 番蚕室 ④農具資料保管状況



図面：羽黒町教育委員会：『国指定史跡松ヶ岡開墾場基本計画』、1996.3より

図 2-22 現在の5番蚕室の使用状況



図面：羽黒町教育委員会：『国指定史跡松ヶ岡開墾場基本計画』、1996.3より

図 2-23 昭和20～40年代における5番蚕室の使用状況



表 2-18 5 番蚕室の構造形式

3 番蚕室の構造形式			
竣工年	明治9年(1876)	木材調達	最上地方
棟梁	相馬 富吉	瓦	鶴ヶ岡城内の瓦
構造	木造三階建	桁行	21間(38.2m)
建築面積	150坪(347.80㎡)	梁間	5間(9.10m)
	1.2階床面積同じ	高さ	5間4尺(10.31m)
3階床面積	17坪(56.31㎡)	柱の形状	八角形断面(1尺3寸5分)(410mm角)
		柱の間隔	中央部 4間(7.28m)
			両端部 3間(5.46m)

表 2-19 5 番蚕室の変遷

西暦	元号	年	事項
1876	明治	9	相馬富吉により建築される。
			養蚕開始。
1882		15	開墾士の脱退による労力不足により養蚕休止。
1891		24	養蚕開始。
1934	昭和	9	(経営転換により桑園廃止し蚕種事業へ転換)
		20～50頃	蚕種製造を行う。
1951		26	松ヶ岡産業株式会社の所有となる。
1978		53	松岡蚕種株式会社の所有となる。
2001	平成	13	保存修理工事終了。
2004		16	松岡物産株式会社の所有となる。
2005		17	庄内映画村株式会社が映画「蟬しぐれ」資料館として開館。
2006		18	庄内映画村資料館とした。
2016		28	鶴岡市の所有となる

参照：武山省三：『松ヶ岡開墾史』、松ヶ岡開墾場、1991.8

武山省三：『凌霜史 松ヶ岡開墾場百二十年のあゆみ』、松ヶ岡開墾場、1997.2



写真 2-58 5 番蚕室 外観 (松ヶ岡開墾場所蔵)



写真 2-59 5 番蚕室 外観 (南西より)



写真 2-60 5番蚕室 外観（平成13年保存修理前・南西より）



写真 2-61 5番蚕室 外観（平成13年保存修理前・東より）



写真 2-62 5番蚕室 一階（平成13年保存修理前・南西より）



写真 2-63 5番蚕室 一階（平成13年保存修理前・南東より）



写真 2-64 5番蚕室 二階（平成13年保存修理前・南西より）



写真 2-65 5番蚕室 二階（平成13年保存修理前・南東より）



写真 2-66 5番蚕室 ①一階展示室



写真 2-67 5番蚕室 ②二階展示室



表 2-20 主要建造物の所有者の変遷

建物名	明治		大正・昭和						平成					
	年月	所有者	年月	所有者	年月	所有者	年月	所有者	年月	所有者	年月	所有者	年月	所有者
本陣	明治5年	開墾場共有財産							平成7年9月	松ヶ岡開墾場				
1番蚕室	明治8年建築	開墾場共有財産	昭和26年2月	松ヶ岡産業(株)	昭和48年3月	松岡蚕種(株)	昭和58年1月	(社)丕頭会	平成25年1月	(公財)致道博物館	平成28年7月	鶴岡市		
2番蚕室	明治8年建築	開墾場共有財産	昭和26年2月	松ヶ岡産業(株)	昭和53年1月	松岡蚕種(株)			平成16年10月	松岡物産(株)	平成28年7月	鶴岡市		
3番蚕室	明治9年建築	開墾場共有財産	昭和26年2月	松ヶ岡産業(株)	昭和53年1月	松岡蚕種(株)			平成16年10月	松岡物産(株)	平成28年7月	鶴岡市		
4番蚕室	明治8年建築	開墾場共有財産	昭和26年2月	松ヶ岡産業(株)	昭和53年1月	松岡蚕種(株)			平成16年10月	松岡物産(株)	平成25年3月	(公財)致道博物館	平成28年7月	鶴岡市
5番蚕室	明治9年建築	開墾場共有財産	昭和26年2月	松ヶ岡産業(株)	昭和53年1月	松岡蚕種(株)			平成16年10月	松岡物産(株)	平成28年7月	鶴岡市		
松岡蚕種事務所			昭和16年建築						平成20年	松ヶ岡開墾場	(平成28年8月)	(解体撤去)		
寄宿舍			昭和23年移築	松岡蚕種(株)					平成16年10月	松岡物産(株)	平成28年7月	鶴岡市		
冷蔵庫			昭和51年6月29日新築	松岡蚕種(株)					平成20年9月	農事組合法人松ヶ岡農場	平成28年8月	鶴岡市		
貯桑土蔵	明治5年建築		昭和26年2月	松ヶ岡産業(株)		松岡蚕種(株)			平成20年9月	松ヶ岡開墾場	平成28年7月	鶴岡市		
蚕種保護室			昭和44年新築	松岡蚕種(株)					平成20年9月	農事組合法人松ヶ岡農場	(平成28年8月)	(一部解体撤去)		
蚕種保護室(冷蔵庫)			昭和47年新築	松岡蚕種(株)					平成20年9月	農事組合法人松ヶ岡農場				
人工孵化場									平成20年9月	農事組合法人松ヶ岡農場				
蚕業稲荷神社		松ヶ岡開墾場												
倉庫	明治5年	開墾場共有財産							平成7年9月	松ヶ岡開墾場				

赤字は、登記簿謄本で確認を行ったものを示す。

黒字は、武山省三：『凌霜史 松ヶ岡開墾場百二十年のあゆみ』、松ヶ岡開墾場、1997.2より確認を行ったものと示す。



表 2-21 主要建造物の居住者の変遷

年	1番蚕室	2番蚕室	3番蚕室	4番蚕室	5番蚕室	6番蚕室	7番蚕室	8番蚕室	9番蚕室	10番蚕室	本陣	厩舎管理棟	茶製場
明治8年		長谷川守寿											
明治9年	久瀬 亀右衛門	相良 権三郎	野沢 正邦	河村 堅吾	長谷川 守寿	下妻 長順	山中 貞吉	朝比奈 準蔵		金子 中禮	鈴木 文右衛門		
明治10年													
明治11年	塚原 権平	疋田 季四治	野沢 正邦										
明治12年													
明治13年													
明治14年													
明治15年													
明治16年													
明治17年													
明治18年													
明治19年													
明治20年													
明治21年	下妻 長順	石井 銅五郎	鱸 権弥										
明治22年													
明治23年													
明治24年													
明治25年													
明治26年													
明治27年													
明治28年													
明治29年													
明治30年													
明治31年	山田 雅直												
明治32年													
明治33年													
明治34年													
明治35年													
明治36年													
明治37年													
明治38年													
明治39年													
明治40年													
明治41年	山田 清助												
明治42年													
明治43年													
明治44年													
明治45年													
大正2年													
大正3年													
大正4年													
大正5年													
大正6年													
大正7年	古野 義郎												
大正8年													
大正9年													
大正10年													
大正11年													
大正12年													
大正13年													
大正14年													
大正15年													
昭和2年												門田 彦郎	
昭和3年													
昭和4年													
昭和5年													
昭和6年													
昭和7年													
昭和8年													
昭和9年													
昭和10年													
昭和11年	菅原 健蔵												
昭和12年													
昭和13年													
昭和14年													
昭和15年													

空欄は居住者なし又は不詳とする。網掛け部分は未建築・移築・解体など、各建物が松ヶ岡に存在しない年代を示す。  
 なお、居住の下限は不明である。

柳洋子：『土族生活挑戦の社会史 近代化の検証、庄内・松ヶ岡』あさま童風社、1995.3  
 武山省三：『凌霜史 松ヶ岡開墾場百二十年のあゆみ』、松ヶ岡開墾場、1997.2より

は蚕室1棟だけとなり、桑は地方の養蚕家に売却した。

養蚕がこのような状況にある中で、明治17年(1884)8月の大暴風雨のため、平屋建の9番と10番の蚕室2棟が倒壊し、再建には至らなかった。また、明治16年(1883)に焼失した朝陽学校再建のため、翌17年(1884)に8番蚕室を寄付したが、移築後の昭和11年(1936)に焼失している。昭和9年(1934)には、松岡製糸所松嶺分工場が火災にあい7番蚕室を移築して再開した。昭和10年(1935)には、鶴岡市新海町に絹織物工場建設のため6番蚕室を移築しており、10棟建設された蚕室のうち、指定地に現存する蚕室は5棟となっている。

#### ④ 貯桑土蔵（桑入土蔵）

蚕の食餌である桑を貯蔵するための土蔵が、蚕室2棟につき1棟の割合で建設された。明治8年(1875)に2棟、明治9年(1876)に2棟、明治10年(1877)に1棟が建設されているが、現在は1棟のみが現存する。

#### ⑤ 寄宿舍

寄宿舍は元々、明治25年(1892)に酒井家邸内に新築された酒井家の蚕室である。後に学問所(文会堂)として使われたが、昭和23年(1948)に松ヶ岡開墾場の寄宿舍として活用するため当地へ移築されたものである。

#### ⑥ 新徴屋敷

開墾当時、開墾士は旧藩士居住地の鶴ヶ岡城下から通勤して、団体経営としての蚕糸事業を開始した。開墾に際しては、編成された各組毎に掘立小屋を建てて休憩所としたが、明治8年(1875)から明治9年(1876)頃にこれを撤去して、明治3年(1870)以降に鶴岡で空家となっていた30数棟の新徴屋敷を松ヶ岡開墾地に移築して組小屋とし、やがて開墾士の住宅として利用した。

現在、指定地東に建つ新徴屋敷は、昭和61年(1987)に概ね原形に近い形で維持されていた匹田家の住宅を7番蚕室跡に移築復原したものである。

### (5) 史跡をとりまく社会環境

#### A) 人口・世帯数

##### ① 鶴岡市の人口・世帯数

現在の鶴岡市は、平成17年(2005)10月1日に旧鶴岡市、旧藤島町、旧羽黒町、旧櫛引町、旧朝日村及び旧温海町の6市町村が合併し、人口14万2千人余の「新鶴岡市」として山形市に次ぎ県内第2位の都市として発足した。

国勢調査に基づく人口推移をみると、平成27年(2015)の人口・世帯数はそれぞれ129,652人・45,339世帯である。平成7年(1995)以降(過去約20年間)、人口は約2万人(約13%)減少、世帯数は約2,700世帯(約6%)増加している。

平成27年(2015)における高齢化率は31.9%と極めて高く、超高齢化と呼べる水準となっている。年齢構成は60～64歳が最も多く、高齢化に拍車がかかることが懸念される。なお、国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計によると、2040年における推計人口は94,090人とされ、平成27年(2015)国勢調査と比して約36,000人(27%)減少し、老年人口割合も増加すると見込まれている。

##### ② 松ヶ岡の人口・世帯数

史跡松ヶ岡開墾場が所在する鶴岡市羽黒町松ヶ岡における平成27年(2015)の人口・世帯数はそれぞれ221人・58世帯である。平成7年(1995)以降(過去約20年間)、人口は43人(約16%)減少、世帯数は3世帯(約5%)増加している。

同地区の平成27年(2015)における高齢化率は34.8%であり、鶴岡市全体の31.9%より更に高い



表 2-22 鶴岡市の人口・世帯数

年	人口(人)			世帯数
	総数	男	女	
平成7年	149,509	71,120	78,389	42,660
平成12年	147,546	70,458	77,088	44,382
平成17年	142,384	67,676	74,708	45,493
平成22年	136,623	64,846	71,777	45,514
平成27年	129,652	61,761	67,891	45,339

国勢調査より  
平成7・12年は合併前旧市町村の総計

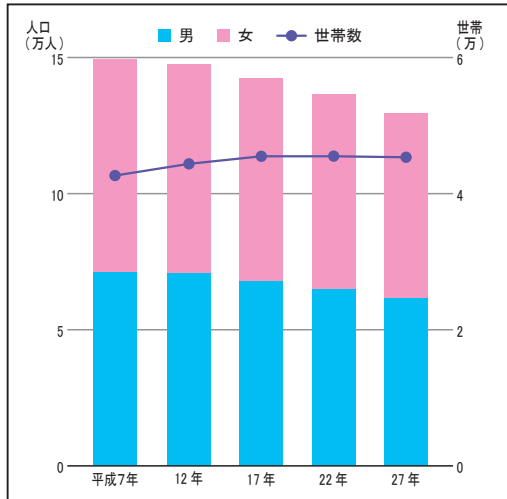


図 2-24 鶴岡市の人口・世帯数

表 2-24 松ヶ岡の人口・世帯数

年	人口(人)			世帯数
	総数	男	女	
平成7年	264	128	136	55
平成12年	240	121	119	55
平成17年	225	106	119	55
平成22年	230	110	120	57
平成27年	221	110	111	58

国勢調査より

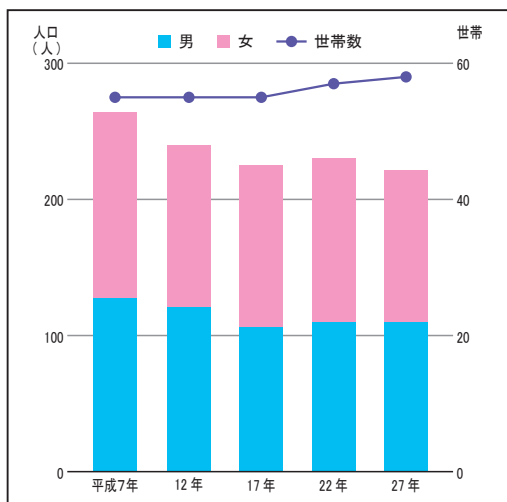


図 2-25 松ヶ岡の人口・世帯数

表 2-23 鶴岡市の年齢別人口(平成27年)

区分	男(人)	女(人)	総数(人)	構成比(%)	
不詳	336	236	572	0.4	
老年人口	95歳以上	99	494	593	31.9
	90～94歳	489	1,610	2,099	
	85～89歳	1,501	3,436	4,937	
	80～84歳	2,731	4,476	7,207	
	75～79歳	3,224	4,723	7,947	
	70～74歳	3,655	4,501	8,156	
	65～69歳	5,095	5,269	10,364	
生産年齢人口	60～64歳	5,266	5,189	10,455	55.9
	55～59歳	4,511	4,595	9,106	
	50～54歳	4,019	4,160	8,179	
	45～49歳	3,702	3,813	7,515	
	40～44歳	4,124	4,022	8,146	
	35～39歳	3,801	3,488	7,289	
	30～34歳	3,128	3,113	6,241	
	25～29歳	2,673	2,574	5,247	
	20～24歳	2,244	1,987	4,231	
	15～19歳	3,329	2,692	6,021	
年少人口	10～14歳	2,965	2,717	5,682	11.8
	5～9歳	2,641	2,514	5,155	
	0～4歳	2,228	2,282	4,510	

平成27年国勢調査より

表 2-25 松ヶ岡の年齢別人口(平成27年)

区分	男(人)	女(人)	総数(人)	構成比(%)	
不詳	2	1	3	1.4	
老年人口	95歳以上	—	1	1	34.8
	90～94歳	—	4	4	
	85～89歳	3	8	11	
	80～84歳	6	5	11	
	75～79歳	4	11	15	
	70～74歳	9	8	17	
	65～69歳	7	11	18	
生産年齢人口	60～64歳	6	8	14	48.0
	55～59歳	13	7	20	
	50～54歳	4	10	14	
	45～49歳	5	3	8	
	40～44歳	13	8	21	
	35～39歳	3	3	6	
	30～34歳	3	5	8	
	25～29歳	3	2	5	
	20～24歳	1	2	3	
	15～19歳	5	2	7	
年少人口	10～14歳	10	3	13	14.8
	5～9歳	8	8	16	
	0～4歳	5	1	6	

平成27年国勢調査より